

「かな書」について

2022年4月に私の所属する「かな書道教室—神戸笹波会福島支部」の第九回社中展をコラッセ福島で開催しましたところ、日頃お世話になっております福島日仏協会の皆様が多数会場にお越しくださいました。それがご縁でこの度思いがけなく事務局よりいくつかのご質問と合わせて寄稿の依頼をいただきましたので「かな書」の美しさ、面白さなど少しでもその魅力をお伝えできればと思います。

■質問1 「漢字」と「かな」について

中国から漢字が伝えられ、正式な文字として真名(まな)と呼ばれました。しかし、漢字だけで日本語を表記する事は大変困難であり、長い年月をかけて漢字の音、訓を借りて案出されたのが仮名(かりな)と呼ばれ「かな」となりました。九世紀後半にはかな文字の体系がほぼ出来上がり十一世紀初期から半ばにかけて最盛期を迎えたと言われています。つまり「かな」は漢字から生まれた日本独自の文化です。

■質問2 「かな」の紙について

書始めるには用具、用材が必要です。筆、墨、硯、紙は古来「文房四宝」と呼ばれ、これらの選択や用い方が作品に大きな影響を与えます。特に「かな」文字を美しく表現するためにはそれにふさわしい紙が求められ、様々な装飾を施した料紙が用いられるようになりました。現代でも作品を創る際には、歌に合った料紙を選ぶことがポイントの一つです。

■質問3 展覧会について

展覧会は全国展と地方展がありますが、その最高峰は数、質ともに日展だと思います。(今年は11月4日~27日国立新美術館で開催されますのでご機会がございましたらぜひ足を運んでください。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の五部門の入選作が展示されます。)

福島支部では、全国展では日展、読売書法展、日本書芸院展、地方展では福島県展、福島市美展、福島県書道協会展などに参加していますが、出品するかしないかは各自の自由です。

尚、福島支部の社中展は原則二年に一度開催しています。

■質問4 「かな」の会派について

大小二十会派以上が活動しているようですが、各会派の詳細を私は存じません。しかし、同じ「かな」でありながら、その表現方法、勉強法は多種多様であり、それが各会派の特徴です。展覧会に出かけて自分好みの会派を見つけられれば書を見る楽しさも増すのではないのでしょうか。

私の師、神戸笹波会会長の田頭一舟先生(日展審査会員)は、全国の教室で「かな書」の普及に努めていらっしゃいます。その線質は流麗かつ繊細、その艶っぽさに魅了されて私はご指導をいただいております。

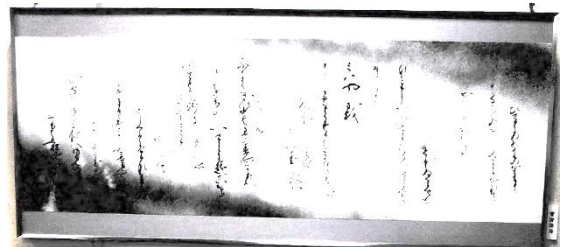


「四季の歌」(2021年) 神戸笹波会会長 田頭一舟

「かな書」の魅力について浅学非才な私が何処までお伝えできたか、はなはだ疑問ですが興味を持って頂けましたら幸いです。

私は東日本大震災の二ヶ月前に入会し現在に至っています。きめ細やかにご指導くださいます田頭一舟先生と出会い、書を学ぶ事により人生の幅が広がったような気がしています。

これから先も時間の許すかぎり、福島支部二十名の書友とともに「かな書」を学び楽しんで参りたいと思っています。



「霞立つ」菅野粹舟(藤江)

-La comédie humain à la française- フランス式人間喜劇 〈現在の市民生活の様相〉

"Sur la plage abandonnée
Coquillages et crustacés
Qui l'eût cru! Déplurent la perte de l'été
Qui depuis s'en est allé
On a rangé les vacances
Dans des valises en carton
Et c'est triste quand on pense à la saison
Du soleil et des chansons..."



ブリジット・バルドーが1963年に歌った
「ラ・マドラグ」のイメージ浜辺 (事務局手配)

Ah fin d'ete, l'autrefois, ainsi chantée par Brigitte Bardot.
Et vous risquez de ne plus jamais en voir la couleur.
Gris même noir sera ce mois de Septembre, car le
président Macron l'a martelé, en cri de guerre sans fin...
ni queue ni tête d'ailleurs...
c'en est fini de l'insouciance-
2ans d'angoisse générée par les dirigeants et la masse
média utilisant la peur du Covid comme arme de
soumission à coup de confinements et d'interdictions en
tous genres si vous n'étiez pas détenteur du sésame -pass
sanitaire rebaptisé plus tard pass vaccinal.

On ne change pas la méthode, ni les « gagnants » avec la
guerre en Ukraine, la crise énergétique, la pénurie
alimentaire, l'éventuelle crise économique et climatique
etc.. De quoi être septique car la gestion de l'épidémie a
été catastrophique et cacophonique! Les français pour
avoir le label bon citoyen se sont fait vaccinés 1 fois,
2 fois, 3 fois...et crack sont tombés malgré tout malades
de ce Covid dont ils étaient sensés être protégés. l'hydre
mac-ronienne alarme sans cesse sur l'état critique des
structures sanitaires, du manque de lits et de personnel
hospitalier etc... cependant ils ont fermé 5 758 lits et
suspendent plus de 3000 soignants n'ayant pas à jour leur
statut vaccinal au cours de l'année 2020 !

Le peuple français doit maintenant faire face à une
inflation galopante; cause de la planche à billets actionnée
à tout va durant la crise Covid, laquelle devait pourtant
nous assurée de contourner le spectre d'une crise
économique majeure..et dès 1er janvier 2023 au prix
explosé de l'électricité, gaz qui risque de faire multiplié le
prix des factures. Bon nombre de particuliers vont se voir

國分文博、ローズマリー(夫人) 2022年9月寄筆

"見捨てられた浜辺に散らばる
貝がらやなんやら、
誰がこの 夏の去り行くことを想像できたでしょう
失ってから初めて去ってしまったものを嘆きます
バカンスは
カートのスーツケースの中に片付けられ
そして、この太陽と歌の季節を思うと切なくなる..."

ブリジット・バルドーが夏の終わりを歌った曲、マドラグという有名な歌の歌詞ですが、実際にこのような雰囲気再び味わうことは暫くはできないかもしれません。この9月は、マクロン大統領が打ち出し続ける勝鬨の声、荒唐無稽な終わりのない戦意によって灰色、黒色にさえなる様相を呈しております。のんびりと無邪気でいられた日々はもうお仕舞...

〈リスク高い新型コロナ(covid19)政策への懐疑とインフレ〉

それらは人々のコロナウイルスに対する恐怖を人民統制に利用しようとする指導者やマスメディアによって必要以上に煽られた不安の波に押し流され、ロックダウンや、夜間外出禁止令、あなたがヘルスパス、後のワクチンパスの保有者でなければ日常生活が出来ぬといった様々の制約を加えられるなどの異常な状態に置き換わってしまいました。

コロナ騒動が下火になってもその方法及び勝者は相変わらずです。現在はウクライナでの戦争、エネルギー危機、食糧不足、経済的および気候的危機等への不安を巧みに利用し権力者たちは庶民の意見、行動を制限しようとしております。

然しコロナ流行の政策があまりにも破滅的で騒々しいものであったので現在多くのフランス人たちはマクロン大統領とその取り巻き連中の言う事成すことに懐疑的になってきております。人々は善良な市民のレッテルを貼るために、1回、2回、3回とワクチン接種を受けました... それにもかかわらず彼等の多くは予防されているはずだったこの covid で病気になりました。亦、医療施設の危機的な状況を叫びつつ、一方で2020年度だけで入院施設のベッドを5,758個削減、3000人もの医療関係者たちをワクチン接種証明の不備等の理由で一時解雇するなどこの危機の只中理論の通らぬ政策を立て続けに行い、現在もなぜこうなってしまったのか理解に苦しむ様な状況が続いているので当然であると言えるでしょう。

亦フランス国民は現在コビド危機の際に経済危機を回避するという大義名分の下に行われた大規模な紙幣印刷の当然の結果として、猛烈なインフレに直面しております。

また、2023年1月1日以降は、電気、ガス料金が爆発的に値上がりする危険性を孕んでおります。今後、この電気代のせいで多くの個人や企業が過剰債務を抱え消費分を払えなくなり破産亦是倒産することになるという暗い見通しが多くの人々の脳裏に浮かんでおります。

折角ですのでここで少し電気の話をして致しましょう。

surendettés et les entreprises en faillite faute de pouvoir payer leur consommation après de la Fée électrique !

Parlons l'électricité. En face de cette crise, le gouvernement mise leur stratégies encore une fois aux restrictions .. Punitions si pas économe car Linky coupera net le jus aux controversants ayant abusés de trop de kilowats consommés! (compteurs linky souvent posés par surprise et imposés aux abonnés d'EDF).

-Près de 43 ans après sa mise en service, la centrale nucléaire de Fessenheim (Haut-Rhin), installée en Alsace sera la première centrale de France à être définitivement arrêtée. Le second réacteur a été mis à l'arrêt le mardi 30 juin 2020. Le réacteur numéro un a lui été mis à l'arrêt le samedi 22 février 2020-

Actuellement, sur les 56 réacteurs du parc nucléaire, 32 sont à l'arrêt, indique la journaliste Christelle Méral. "Après la catastrophe de Fukushima en 2011, le nucléaire n'était plus la priorité. Le patron d'EDF vient de mettre en cause les présidents Hollande et Macron, en les accusant d'avoir penché pour la fermeture des centrales", explique Christelle Méral sur l'antenne de France 3.

L'héritage de de Gaulle ayant assuré l'autonomie nucléaire et la capacité de même exporté l'électricité national est détruit pour une raison purement politique.

La fermeture en chaîne de multiples centrales nucléaires sous prétexte de conversion à des énergies plus propres a réduit la capacité d'approvisionnement en électricité. L'implantation d'éoliennes sensée être la réponse en terme d'énergie propre est un fiasco, n'a fait que détruire la nature et nuire à la faune. La France est dans le marasme !

Noël 2023 sera à la chandelle, en combinaison de ski à manger des raviolis froids en conserve à partager chez soi en grelottant avec sa famille...à moins que le pass énergétique nous sorte de là qui sait...

Adieu Paris ville lumière et adieu le pays des Lumières

Des usines métallurgiques ferment, et demain peut-être les supermarchés n'ouvriront que quelques jours

ou heures dans la semaine car trop voraces selon EDF pour l'éclairage et le chauffage. Et à quand les rayons à moitié vides? le vent de la révolte se profilera-t-il bientôt ?

En 1789 les français ont fait la Révolution car la famine régnait, ils demandaient du pain au roi... qui finit guillotiné.

Septembre noir et ses manifestations seraient-ils l'appel à la révolte mais il y a-t-il encore un de Gaule pour lancer un appel et sauver la France?

Les français et leurs confrères européens semblent incapables de sortir de ce cercle vicieux de crises multiples alors qu'un dialogue par ex avec la Russie concernant

<原発(56基中32基)停止で代替エネ費用かさみ電気代高騰中>

このエネルギー危機に直面して、政府は亦一度その戦略の舵を国民の生活に制限を加えるという方向に切りました。リンクメーターは2019年以降、EDF(フランス電気局)の多くの加入者に殆ど合意もなく不意に設置された電気メーターのことで、これはあまりにも電気を多量に消費したり、物議を醸す人々の住居の電源を遠隔で遮断出来るという機能がついているのでそれによって儉約しない場合は罰として世帯ごとに電気を止める、更には地域ごとに消費できる電気量に天井を設けてそれに沿って4時間、または8時間完全に電気を遮断するという計画すら立てております。

フランスといえば原子力先進国の筈なのになぜ？

-アルザス地方にフェッセンハイム原子力発電所(Haut-Rhin)がありましたが、2020年2月22日(土)に1号機が停止、2号機は続く6月30日(火)に完全に停止し致しました。運転開始から約43年が経過し、フランスで初めて最終的に停止された発電所となってしまいました。

現在、フランス国内の原子力パークにある56基の原子炉のうち、32基が停止していると、ジャーナリストのクリステル・メラルさんは言っています。「2011年の福島原発事故以降、原子力発電は政治的に敬遠されるようになりました。EDFの局長がオランド前大統領とマクロン大統領の姿勢が発電所の閉鎖に繋がったと非難の声明をしたばかりです」と、テレビ局のフランス3でクリステル・メラルは説明しております。

原子力によって国産電力の自律性、さらには輸出能力を確保せんとしたドゴールの悲願とその遺産が、純粋に政治的な理由で無残に破壊されているのが現状です。よりクリーンなエネルギーへの転換を口実に複数の原子力発電所が閉鎖され、結果国全体の電力供給能力が低下しています。クリーンエネルギーとして期待された風力発電の設置は、その効率の悪さ(期待されていた発電量の僅か4分の1程度しか発電できていないという現状)から、結果的にはたんに景観を損ね、自然を破壊し、野生動物に危害を加えるだけという大失態に陥っております。フランスは何処に向かっているのでしょうか。

今年のクリスマスは、キャンドルライトの下で、スキースーツを着て、冷たい缶詰のラビオリを食べて、家族と一緒に震えながら家で過ごすことになるのでしょうか...それともマクロン大統領が彼のエネルギーパス政策によって我々をそこから解放してくれるのでしょうか。何とも言えません。

さらば光の都パリよ！ さようなら啓蒙思想の故郷よ！

金属工場が閉鎖され、明日はスーパーマーケットなどは一週間に数日。または数時間しか営業できないようになるのでしょうか、EDFによると、彼らはあまりにも電気に貪欲であるため、週に1回または数時間の制限が掛けられる必要があるということです。そして、食料不足と相まっていつかは棚は半分空っぽになるのでしょうか。そうして再び暴動の嵐が吹いたりするのでしょうか。

le conflit ukrainien pourrait apaisé les tensions. La France excelle ordinairement en l'art de la diplomatie. Qu'attendons-nous alors ?

Paradoxalement les français continuent de s'adonner à ce qui leur sied le mieux: le plaisir de manger un plat savoureux au restaurant, sortir en boîte de nuit pour danser, conter fleurettes. Les musées retrouvent leurs touristes éblouis. Paris semble retrouvé son éclat ! On retient cependant son souffle car des temps obscurs se profilent sournoisement à l'horizon...



パリの街角 (AFP 通信より)

國分文博氏(会員國分敏夫、順子次男)

パリ在住25年。最新パリ事情を2020年10、11月号に続き2回目の寄稿。シャネル社の時計技術指導者。スイス、イタリア、スペインにも出向して活躍中。45歳、夫人と子ども3人の5人家族。

1789年、フランスが革命を起こしたのは飢饉による食料不足が一つの原因とされています。

彼らははじめは王にパンを求め、最終的には王をギロチンにかけ...

現在囁かれる「黒い九月」と呼ばれる運動とそのデモは、これからの反乱の呼び水となり得るのでしょうか？其れともフランスを救うために立ち上がり人々を喚起できるドゴール將軍のような人物がそこから出て来てくれるのでしょうか？

＜表向き輝いている市民生活と先行きへの不安＞

現実にはフランスをはじめとするヨーロッパ諸国はリーダーシップ不在の為、この多重危機の悪循環から抜け出すことができないでいるようです。一方、例えばウクライナ紛争に関するロシアとの対話は、現在の緊張を緩和することができる筈です。フランスは普段から外交術に長けているではありませんか。では、私達は何を待っているのでしょうか？

逆説的ですが、表向きには一般的なフランス人はレストランでおいしい食事をする、ナイトクラブで踊りに行くこと、おしゃべりをするなど、自分たちに合った楽しみ方をし続けるのに忙しいようです。レストランは連日満員、美術館は眩しいほどの観光客を迎え入れています。パリは再び輝きを取り戻したようだ！しかしその一方で暗黒の時代がずるずるヒタヒタと迫っているのを感じているので、みな内心息を潜めております。

キャッチ・アップ

もう40年以上も大昔のことである。新婚旅行はニューヨークだった。航空機の中で隣り合わせたニューヨークで働くある日本人から「新婚旅行でニューヨークへ行くなんて変わってますね」と言われた。自分自身の憧れのニューヨークに一度は行ってみたかったので、JTBのニューヨーク・フリー10日間を利用してニューヨークへ行った。一応、エンパイア・ステート・ビルに上り、五番街をぶらつき、セントラルパークを歩き、ティファニーを覗いてみた。

ニューヨークは自分で考えていた以上に巨大なところであり、人の多さに圧倒され、ビルの高さに武者震いした。その頃、東京の銀座でも現在ほどの高い建物はなかった。バリっとしたスーツ姿のジェントルマンがホットドックを食べながら歩いているのにはびっくりした。ブロードウェイのミュージカルを見るためにマジェスティック劇場(Majestic Theatre)へ行き、「オズの魔法使い」を観た。しかし英語のスピードが速く、全く聞き取れず、隣のアメリカ人の子供が笑うのに合わせて、こちらにも笑って理解しているふりをした。

やはりアメリカに来たのだからとハンバーガー・ショップへ行った。カウンターに座りオーダーすると、カウン



夕暮れのマンハッタンを望む

ターの中のお兄ちゃんが「キャッチ・アップ?」(そう聞こえた)と聞く。さて「何を追いかけるのだろうか?」と考えた。また「キャッチ・アップ」と聞いてくる。モタモタしていると、お兄ちゃんはケチャップの瓶を持ち上げた。「ああ、ケチャップのことなんだ」。「ヤー」と答えた。後で辞書を調べると、ケチャップは ketchup が普通だが catchup と書くようである。このような慣れない発音の難しさは外国旅行の際によく経験されるものである。ニューヨークを舞台にした昔の映画「七年目の浮気」、「愛情物語」、「ティファニーで朝食を」、「アパートの鍵貸します」、「恋におちて」などはとても懐かしい。

土屋敦雄(会員)